



環境かわら版

2024年3月号(334号)



「キャンドルナイト in あいち」を開催します(P2)



「もりの学舎 (まなびや) まつり」を開催します(P3)



「2024 愛知環境賞」の表彰式を行いました(P4)



モリゾー キョウゴ
あいち SDGs アンバサダー

愛知県は「SDGs 未来都市」として、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けた取組を推進しています。県の環境に対する取組は、環境局 Web ページ「あいちの環境」で紹介しています。



「あいちの環境」(<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/>)



「キャンドルナイト in あいち」を開催します



愛知県では、お子さんから大人の方まで、より多くの皆さんに、「地球環境のこと」を今一度考え、ライフスタイルの転換につなげていただくために、「キャンドルナイト in あいち」を開催します。

是非ご参加ください。

1 日時 3月25日(月) 16:00~19:30

2 会場 Hisaya-odori Park 南側(久屋大通公園)、
中部電力 MIRAI TOWER(名古屋テレビ塔)

3 内容

(1) ステージプログラム(18:00~19:30)

空き缶などの廃品から生まれた楽器による「みらい楽器ラボ」、学生等によるアコースティックライブ、消灯式などを実施します。

(2) ライトダウンの実施(18:45~19:30)

会場周辺の店舗にもご協力いただき、会場の明りを消灯します。

(3) キャンドルアート作品の展示(17:00~19:30)

県内の大学・専門学校の学生の皆さんが、「地球のミライへのみんなの想い」をキャンドルアート作品で表現します。

(4) ワークショップ(16:00~18:00)

空きペットボトルでランプシェードを作るワークショップを実施します。

4 その他

- 参加費無料、事前申込不要
- オンライン配信あり(通信費自己負担)

詳細はWebページまたはX(旧Twitter)をご覧ください。



[Web ページ]



[X]

環境政策課 企画・広報グループ
電話 052-954-6210(ダイヤルイン)

「あいち環境塾」オープン講座の参加者を募集しています



愛知県では、企業・団体・行政などで活躍する持続可能な社会づくりのリーダー育成を目的に2008年度から「あいち環境塾」を開講しています。

この度、塾を体験していただくオープン講座を開催します。参加費は無料です。是非ご参加ください。

1 日時 3月23日(土) 13:00~16:00

2 場所 名古屋商工会議所 3階第5会議室

3 対象 県内在住の方又は県内の企業、NPO、大学等に所属の方

4 定員 40名

5 主なプログラム

(1) 講演会

「サステナブルな企業に向けて
価値創造戦略を考える」

講師：(一財)中部SDGs推進センター

代表理事 戸成 司朗 氏



(2) 卒塾生による成果発表

(3) 会場参加者によるディスカッション

6 申込(締切:3月18日(月))

○ Web ページ

下記のURLからアクセスし、お申込みください。
(https://www.nisri.jp/chc/kankyojuku_ex-form.html)



○ メール

件名を【あいち環境塾オープン講座参加申し込み】とし、①氏名 ②住所 ③電話番号 ④メールアドレスを明記の上、お申込みください。

7 申込先・問合せ先

(公財)名古屋産業科学研究所

メール:kankyojuku@nisri.jp

電話:052-223-6639

資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233(ダイヤルイン)



「もりの学舎(まなびや)まつり」を開催します



愛・地球博記念公園内の環境学習施設「もりの学舎」では、名古屋キワニスクラブの協賛を得て、「もりの学舎まつり」を開催します。

キッズインタープリター(小学4年生～6年生)による自然体感プログラム「キッズインタープリターデビュー」や、様々な自然遊びをする「森のアソビバ」、森に隠れた生きもののイラストを探す「森の生きものみつけ」などのプログラムを実施します。

また、「キッズインタープリターデビュー」と「森の生きものみつけ」の参加者には、記念品をプレゼントします。

参加費は無料です。ご参加をお待ちしています。



キッズインタープリターデビューの様子(昨年度)

1 日時

3月17日(日) 11:00～15:00

2 内容

- (1) キッズインタープリターデビュー(事前申込制)
1回 20～50分程度の自然体感プログラムです。
・森池ツアー(自然体感ツアー、全2回)
・森のクラフト(工作体験、全3回)
・森のワーナーゲー(自然遊び体験、全4回)

(2) 森のアソビバ(当日受付)

(3) 森の生きものみつけ(当日受付)

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/r5fes.html>)



もりの学舎まつり

検索

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208(ダイヤルイン)



「もりの学舎」春休み特別企画を実施します



「もりの学舎」では、(一社)愛知県産業資源循環協会の協賛を得て、春休み特別企画を実施します。

特別企画では、リサイクル素材や身近な自然素材を使った工作教室「あそび工房」、自然の色や形を楽しむプログラム「ふしぎ万華鏡」、森に隠れた生きもののイラストを探す自然遊び体験「いきものことばみつけ」を実施します。

そのほか、「インタープリターと歩くもりのツアー」など、通常のプログラムも実施します。

参加費は無料で、事前申込は不要です。春を感じに、「もりの学舎」へ遊びに来てください。

1 日時

3月23日(土)、24日(日)、

30日(土)、31日(日)

開催日の10:00～16:00の間で随時受付

2 内容(特別プログラム)

- (1) あそび工房(所要時間:各20分)

- ・光の小箱 ・森のフォトフレーム
- ・えんぴつづくり

- (2) ふしぎ万華鏡(所要時間:15分)

- (3) いきものことばみつけ(所要時間:20分)



「あそび工房」(光の小箱) 「いきものことばみつけ」

詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/r5spring.html>)



環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208(ダイヤルイン)



「2024 愛知環境賞」の表彰式を行いました



愛知県では、2005年の愛知万博を契機に、企業、団体などが行う先駆的で効果的な「技術・事業」<活動・教育>の事例を「愛知環境賞」として表彰しています。

20回目となる今回は、サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルに関する取組など、49件の応募の中から、金賞の(株)シーテックの「～鉄塔保守から治山保全へ～ KODOBOKU 技術と災害予測技術の開発」を始め15件の受賞者を決定しました。

2月14日にホテルメルパルク名古屋で開催した表彰式では、知事、環境パートナーシップ・CLUBの池利和会長（ブラザー工業(株)取締役会長）、(株)中日新聞社の池口真美事業局事業統括部地域貢献課長、名古屋市の山岡充昌経済局参事から各受賞者に対して表彰状とトロフィーが授与されました。



「金賞」の(株)シーテック

2024 愛知環境賞 受賞者一覧

賞の種類	受賞者	受賞事例
金賞	(株)シーテック	～鉄塔保守から治山保全へ～ KODOBOKU 技術と災害予測技術の開発
銀賞	豊田鉄工(株) (株) Comodo LABO よりあい工房ぼんどり	“地域とつなぐ” “未来へつなぐ” トヨタの森での自然共生プログラムの推進
	フルハシ EPO(株)	木質バイオマスのカスケードリサイクルにおける独自の技術体系による産業化と業界の牽引
銅賞	(一社) 食品リサイクル推進協議会 岩田食品(株)	食品工場における食品残さのオンサイト乾燥飼料化を起点とする 県内事業者の連携による持続可能な食品循環システムの構築
中日新聞社賞	岡崎製材(株)	木の端材を活用した木育活動 “HAZAI@project”
名古屋市長賞	(株)One Chemical Company	半導体製造などのめっき工程で発生する使用済みカートリッジフィルターのリサイクル技術の確立
優秀賞	(株)渥美フーズ	江戸時代からヒントを得た資源循環の仕組み ～自社のスーパーや飲食店の生ごみを活用した養鶏・堆肥化事業～
	グリーンサイクル(株)	使用済み家電プラスチックの高純度選別プロセスの構築による国内資源循環システムの向上
	(株)そうぎょう	排出される金属切屑の量や大きさに応じてカスタマイズできる 独自の高精度脱油システム
	(株)ティー・エー・エス	自動車アフターマーケット分野における循環型ビジネスの展開
	手羽先サミット®実行委員会	食のイベント「手羽先サミット®」におけるごみ削減・リサイクルの推進
	トーエイ(株)	各種廃棄物を高いリサイクル技術により再資源化することによる 循環ビジネスの創出
	豊島(株)	原料から販売までを手掛ける商社の強みを活かした持続可能なライフスタイル提案
	ホームックス(株)	ステーキホルダーと連携して取り組む SDGs 目標達成への挑戦
	三井屋工業(株)	独自の処理方法と材料配合による複合プラスチック端材の工程内リサイクルシステムの確立

※詳細は愛知環境賞のWebページをご覧ください。
(<https://aichi-shigen-junkan.jp/kankyoushou/>)



資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)

愛知県とブラジル・サンパウロ州のユースによる 「オンラインユース交流プログラム」を実施しました



愛知県では、ブラジル・サンパウロ州と締結した「友好交流及び相互協力に関する覚書」に基づき、両地域のユース世代が生物多様性保全上の課題や取組などについて互いに学び合う友好交流プログラムを2021年度からオンラインで実施しています。

今年度は、県が「あいち生物多様性戦略 2030」で重視している「多様な主体による生態系保全の取組」をテーマに、昨年11月と今年1月の2回、両地域のユース5名ずつが参加する交流会を開催しました。

愛知ユースに対しては、交流会に先立ち、知多半島臨海部で進められている学生や企業など多様な主体の連携による生物多様性保全推進プロジェクトの現場見学会を実施し、テーマに関する理解を深めるとともに、各自の関心や日頃から取り組んでいる保全活動の内容を共有する機会としました。



愛知ユースによる現場見学会の様子

第1回交流会では、参加者がそれぞれ自己紹介をしたのち、両地域における保全活動について発表しました。愛知ユースは藤前干潟における取組や生態系ネットワーク協議会、県内で生物多様性保全に取り組むユース組織「GAIA」の活動などについて、サンパウロユースは海洋生態系の保全や多様なグループへの環境教育などについて発表しました。最後に、両地域における取組や環境・文化などについて質問し合ったうえで、第2回交流会において相手側ユースからの説明を希望するテーマを相互に提示し合いました。

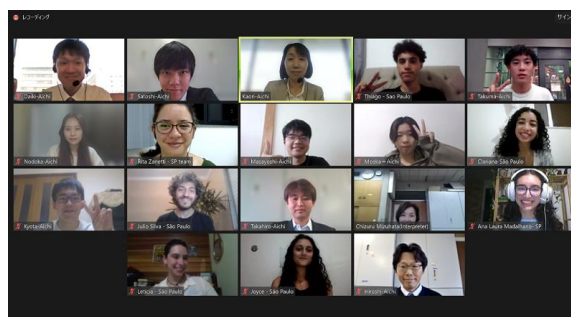
第2回交流会では、愛知ユースはサンパウロユースから問いかけられた「人と自然が歴史的にどう変化し、ユース世代はどのように学び、行動してきたか」

をテーマに、愛知の自然の特徴や2010年に愛知・名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）を契機に始まった生物多様性保全の取組などについて紹介しました。



愛知ユースによる発表（COP10の紹介）

サンパウロユースは、愛知ユース側から問われた「生物多様性についての一般市民の認知度と無関心層の巻き込み方」をテーマに発表しました。このなかでは、コミュニティの特性や文化的背景に基づく環境教育の重要性が強調される一方で、サンパウロではこれが学術的なアプローチに留まっており、市民の自発的な取組には至っていないことも示されました。



交流会の様子

この交流会の終了後、両地域のユースから「文化的背景が異なっても、共有可能なアプローチがあることを学んだ」「今までにない新たな視点を持つことができた」などの感想が寄せられました。

今回の交流機会が若者による、より一層積極的な保全活動のきっかけとなるよう期待しています。

〔自然環境課 国際連携・生態系グループ
電話 052-954-6229（ダイヤルイン）〕

あいちカーボンニュートラル戦略会議で 新たに脱炭素プロジェクトを選定しました



愛知県は、2050年カーボンニュートラルを実現するため、全国の民間企業等を対象に、革新的・独創的な脱炭素プロジェクトのアイデアを募集するとともに、提案されたアイデアの中から、事業化すべきプロジェクトを学識者からなる「あいちカーボンニュートラル戦略会議（以下「戦略会議」という。）」で選定し、事業化の支援を行っています。

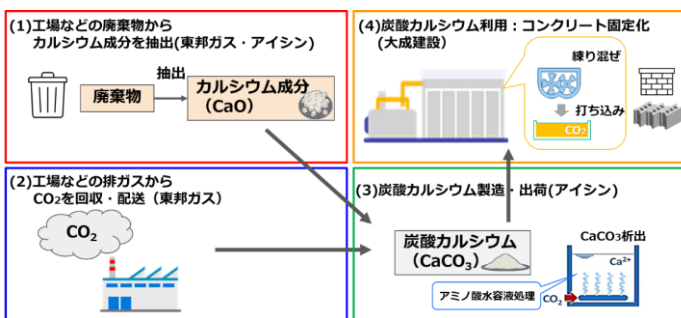
2023年12月14日に開催した戦略会議において、事業化を支援すべき脱炭素プロジェクトとして、大成建設(株)、(株)アイシン及び東邦ガス(株)から提案のあった「CO₂コンクリート固定化技術を用いた域内カーボンリサイクル*プロジェクト」と、ワタミ(株)、(株)ムロオ及び三和清掃(株)から提案のあった配送等に燃料電池トラック（以下「FCトラック」という。）を活用する「荷主と運輸事業者等の連携による物流脱炭素化プロジェクト」が選定されました。

* CO₂を資源として捉え、分離・回収して様々な製品や燃料に再利用することで、CO₂を有効活用する取組。

1 CO₂コンクリート固定化技術を用いた域内カーボンリサイクルプロジェクト

(1) 内容

工場等から排出されるCO₂を回収し、廃棄物中から抽出されるカルシウム成分と反応させて炭酸カルシウムとし、コンクリートの原料として有効活用することで、地域内におけるカーボンリサイクルサプライチェーンの構築を目指します。



プロジェクトのイメージ

(2) 県としての支援内容

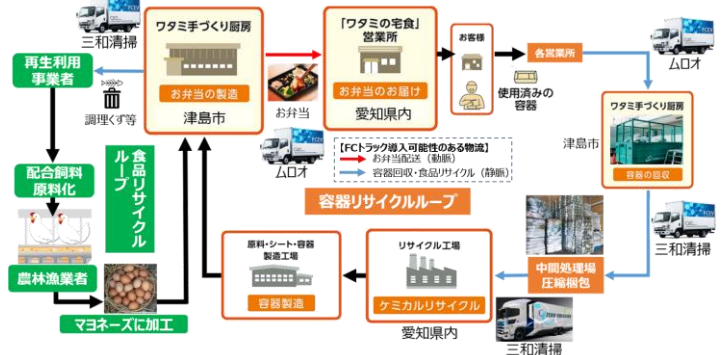
市町村・関係企業等が参画する推進協議会の設置や、廃棄物収集・CO₂回収スキームの構築支援、法規制に係る課題の整理・採算性の評価等を実施します。

2 荷主と運輸事業者等の連携による物流脱炭素化プロジェクト

(1) 内容

「ワタミの宅食」の弁当配送、使用済容器や調理くずの回収の物流部分を脱炭素化するために、FCトラックを先行導入するとともに、物流脱炭素化モデルスキームを構築し、県内の物流に幅広く横展開することを目指します。あわせて、効率的な水素供給の方策についても検討します。

■短期（2024年度～） 愛知県内の配送等に小型のFCトラックを導入することによりサプライチェーン全体の脱炭素化を検討



■中期（2025年度～） 愛知県外（関西・北陸・静岡等）への配送（幹線輸送）等に大型のFCトラックの導入を検討
プロジェクトのイメージ

(2) 県としての支援内容

荷主・運輸事業者等が参画する推進協議会の設置や、県内の荷主・運輸事業者等に横展開できるモデルスキームの構築（運送ルート、水素充填スキーム）、FCトラックの導入需要の掘り起こし・とりまとめを実施します。

詳細はWebページをご覧ください。

1 カーボンリサイクルプロジェクト



2 物流脱炭素化プロジェクト



地球温暖化対策課 活動支援グループ
電話 052-954-6887（ダイヤルイン）



「AEL(あえる)ネット環境学習 スタンプラリー」を開催しました



県民の皆さんに楽しく環境について学んでいただくため、愛知県環境学習施設等連絡協議会(略称:AEL ネット)に加盟する173の環境学習施設等が連携して、2023年6月21日から2024年2月23日まで「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を開催しました。

このスタンプラリーは、環境学習施設等への来館や環境をテーマとした講座・イベントへの参加によりスタンプを集めるもので、スタンプを3個以上集めてご応募いただいた方の中から、抽選で図書カード等の記念品をプレゼントしています。

スタンプラリーには多くの方にご参加いただき、記念品の抽選には1,000通を超える応募がありました。参加者からは、「楽しみながら環境が学べた」「スタンプラリーをきっかけにりにくいと感じていた施設を訪れることができた」「デジタルスタンプは便利」「子供も楽しんでいた」「来年度もぜひスタンプラ

リーに参加したい」などの感想が寄せられました。

来年度も、6月頃から開催する予定です。是非ご参加ください。

(<https://ael-stamp.jp>)



AEL ネット環境学習スタンプラリー

検索

AEL ネット環境学習スタンプラリー対象講座の様子



あいち海上の森センター
「森の自然教育」



春日井市
「エコワールド」

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)

水質汚濁防止法の排水基準等が変更されます



水質汚濁防止法の六価クロム化合物及び大腸菌群数の排水基準等が変更されます。

1 六価クロム化合物の排水基準等 (2024.4.1 施行)

人の健康の保護に関する環境基準の項目である六価クロムについて、基準値が引き下げられたことを受け、六価クロム化合物の排水基準等についても下表のとおり見直しが行われました。

	改正後	改正前
六価クロム化合物		
排水基準	0.2 mg/L	0.5 mg/L
地下浸透基準	0.01 mg/L	0.04 mg/L
地下水浄化基準	0.02 mg/L	0.05 mg/L

経過措置として、排水基準について、電気めっき業に属する特定事業場にあつては、施行の日から3年間は、0.5 mg/Lが適用されます。また、施行の際現に特定施設を設置(設置の工事をしているものを

含む。)している特定事業場にあつては、施行の日から6月間(水質汚濁防止法施行令別表第三に掲げる施設を設置している特定事業場にあつては、1年間)は、改正前の排水基準が適用されます。

2 大腸菌数の排水基準 (2025.4.1 施行)

生活環境の保全に関する環境基準の項目である「大腸菌群数」が、よりの確にふん便汚染を捉えることができる指標である「大腸菌数」に改正されたことを受け、排水基準についても下表のとおり見直しが行われました(経過措置はありません)。

改正後	改正前
大腸菌数	大腸菌群数
日間平均 800 CFU/mL	日間平均 3,000 個/cm ³

※ CFU: コロニー形成単位

水大気環境課 水・土壌規制グループ
電話 052-954-6222 (ダイヤルイン)

気候変動の「緩和」と「適応」について理解を深めていただくため、愛知県地球温暖化防止活動推進センターとの共催で、「気候危機対策交流フォーラム」を1月11日に開催しました。基調講演では「気象災害と地球温暖化～台風と豪雨について～」と題して、名古屋大学宇宙地球環境研究所・教授/横浜国立大学台風科学技術研究センター・副センター長の坪木和久さんにご講演いただきましたので、内容の一部を紹介します。

○ 線状降水帯予測の鍵「大気の河」

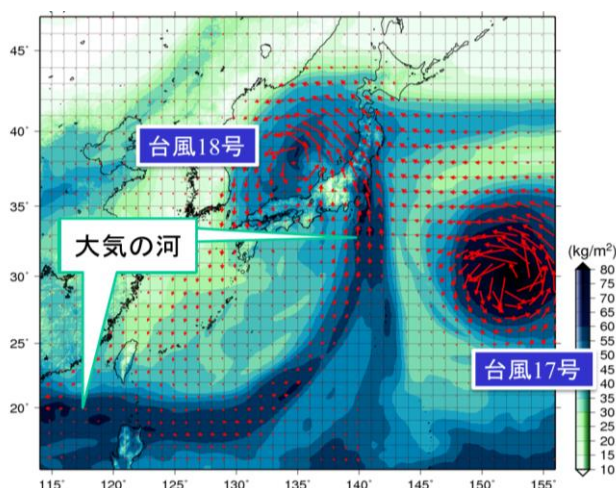
日本の位置する北太平洋西部は、地球上で最も多くの、しかも最も強い熱帯低気圧・台風が発生する地域です。さらに、地球温暖化の影響を大きく受ける地域であり、それに伴って豪雨による気象災害が激甚化しつつあります。各地に気象災害をもたらす線状降水帯の予測の鍵として、最近注目されているのが、「大気の河」と呼ばれる大量の水蒸気の流れです。大気の河は、北米や欧州では以前から知られていましたが、近年、日本付近でも、台風や前線とともに発生する場合があります。

例えば、2015年9月の鬼怒川決壊をもたらした関東・東北豪雨では、日本海にある台風18号の東側に、南シナ海から太平洋、そして関東地方に続く大気の河が形成され、毎秒40～50万トンの水蒸気が流れ、線状降水帯を発生させました。これは、信濃川(毎秒500トン)の水量の1000倍に相当します。また、2023年6月に東三河地域を中心に大きな被害

を出した豪雨等でも、南シナ海から台風2号の東側を通過して梅雨前線に続く大気の河が形成されました。

地球温暖化に伴って、海面水温が上昇するとともに、大気中の水蒸気量も増加しています。温暖化の進行により、これまで生じたことのない豪雨が発生することも予測されています。大気の河など気象現象への理解を、シミュレーションと航空機観測の両方を用いて深めることが、気象の予測精度を向上させ、激甚化する災害への対策となると期待されています。

(大気中の水蒸気量分布は、「MIMIC TPW2」と検索すると、Web上でも見るができますので、参考にしてください。)



2015年9月9日18時洪水発生時の水蒸気量分布

環境調査センター 企画情報部
愛知県気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

※掲載のイベントや講習会等は、天候の影響等により、内容を変更又は中止する場合があります。

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
2024年3月4日発行(第334号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6
電話 052-910-5486(ダイヤルイン)

編集後記
今月号で、今年度最後の「環境かわら版」となりました。今後も皆さんに県の環境行政についての最新情報を分かりやすくお届けできるよう努めていきます。来年度も「環境かわら版」をどうぞよろしくお願ひします。(企画・編集チーム)

今月号とバックナンバーを「環境かわら版」Webページに掲載しています。
(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>)

掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いします。

